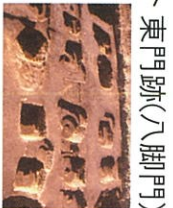


北側区画柵列跡
この施設を囲んでいた頑丈な柵の跡です。



東門跡(八脚門)

八脚門は、大きな寺院や宮殿などにつくられる豪華な門です。この門から西側にある施設が、重要な場所であることがわかります。



昭和48年出土焼米

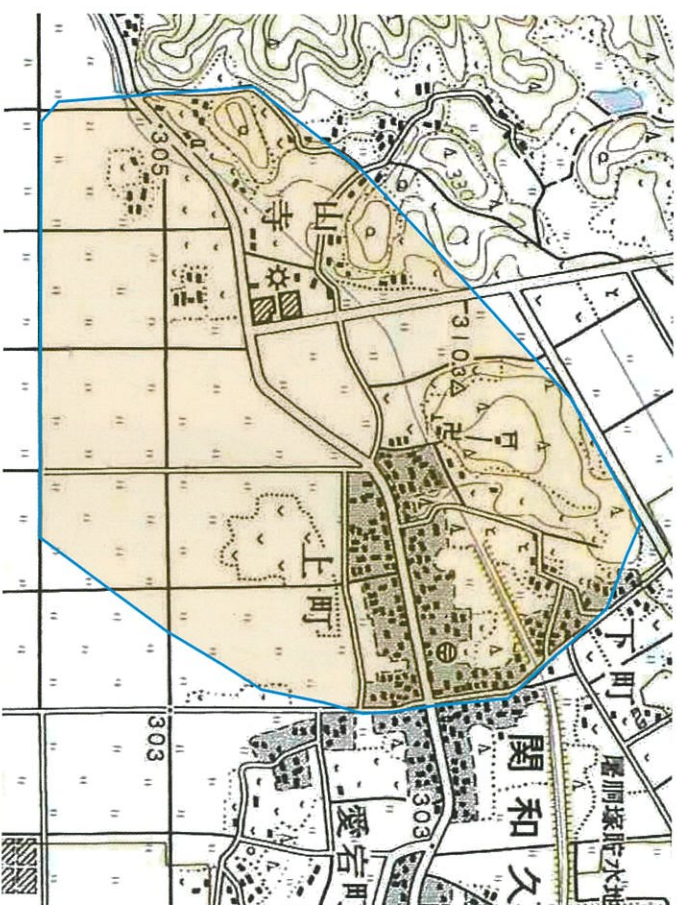


正倉院区画大溝コーナー



建物柱痕跡(SB01-02-03)

白河市にある福島県埋蔵文化財センター白河館(まほろん)には、関和久官衙遺跡で発見された建物柱痕跡から復元された正倉院高床式倉庫が建っています。柱など建物木材は当時使われていた工具で加工したもので、よく観察してみよう。



古代白河郡役所の推定範囲

関和久官衙遺跡と関和久上町遺跡

関和久官衙遺跡の東方に関和久上町遺跡があります。昭和57年から平成3年まで福島県教育委員会によって発掘調査が実施された結果、関和久官衙遺跡と同じ時期の建物跡などが発見されました。上町遺跡は住宅街が立ち並び調査した場所が断片的であったため、白河郡役所のどのような施設であったかは明らかになっていない。しかし、建物の中には関和久官衙遺跡で発見されるよりも規模の大きなものもみられることから一時期、郡庁院があった可能性もあります。いずれにしても関和久官衙遺跡から関和久上町遺跡にかけて実に1kmにおよぶ広大な範囲に古代白河郡役所が存在していたと考えられています。



関和久上町遺跡の建物跡